

兵庫県立尼崎の森中央緑地リノベーション計画

令和3年3月

兵庫県県土整備部公園緑地課

目 次

1. 兵庫県立都市公園リノベーション計画について	1
1-1. 本計画の背景と目的	1
1-2. 本計画の対象	1
1-3. 計画期間	1
2. 計画策定にあたっての基本的な考え方	2
2-1. リノベーション計画の作成方法	2
2-2. 県立都市公園の成り立ち	3
2-3. 基本計画の点検とその対応	5
2-4. 県立都市公園をとりまく社会情勢等の変化への対応（SDGsを意識した取組みの推進）	7
3. 尼崎の森中央緑地の概要	12
4. 尼崎の森中央緑地リノベーション計画	14
4-1 尼崎の森中央緑地の成り立ち	14
4-2 リノベーションテーマ	15
4-3 リノベーション方針	15
4-4 対策内容	18
4-5 スケジュール	30

1. 兵庫県立都市公園リノベーション計画について

1-1. 本計画の背景と目的

兵庫県では、平成 28 年に策定した「兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画」（以下、「基本計画」）に基づき、「活力あふれる地域づくり」「子育て」「環境との共生」「安全安心な地域づくり」に資する公園づくりと「持続可能なパークマネジメント」の実現を目指した県立都市公園の整備・管理運営を進めています。

基本計画では、社会変化を踏まえたリノベーション等を推進することとしており、少子高齢化、人口減少などの社会情勢の変化を踏まえ、個別の施設ばかりではなく、公園全体としてあり方を検討するなど、県立都市公園が時代の変化に的確に対応し、ストック効果を発現できるようリノベーション等に取り組む、としています。

これに基づき、県立都市公園のリノベーションに関わる具体的方策を計画的に推進していくためのアクションプランとして本計画を策定します。

■上位計画

兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画（平成 28 年）

中長期的な視野にたち、今後 10 年間にわたり県立都市公園が担うべき役割と方向性を明らかにし、整備・管理運営を進めていく上での基本方針、推進施策を定める計画。

■本計画

兵庫県立都市公園リノベーション計画

各公園のリノベーションの方向性を示すとともに、具体方策を計画的に推進していくためのアクションプラン。

1-2. 本計画の対象

本計画の対象は、すべての県立都市公園（全 15 公園）とします。

なお、開園後、相当の期間が経過しており、魅力の低下している公園のうち、これまで具体的な取組みに着手できていない明石公園及び播磨中央公園や、「兵庫県地域創生戦略（2020-2024）」における、重点目標「豊かな文化が息づき、安全安心でにぎわいあふれる兵庫をつくる」の主要事業に位置付けられ新たな取り組みを始める有馬富士公園の 3 公園を、重点公園として位置付けます。

1-3. 計画期間

本計画は、本件の財政状況や各公園の課題を踏まえ、中・長期的な視野に立ち、今後 10 年を重点期間とし 10～15 年後を展望した取組みを示します。

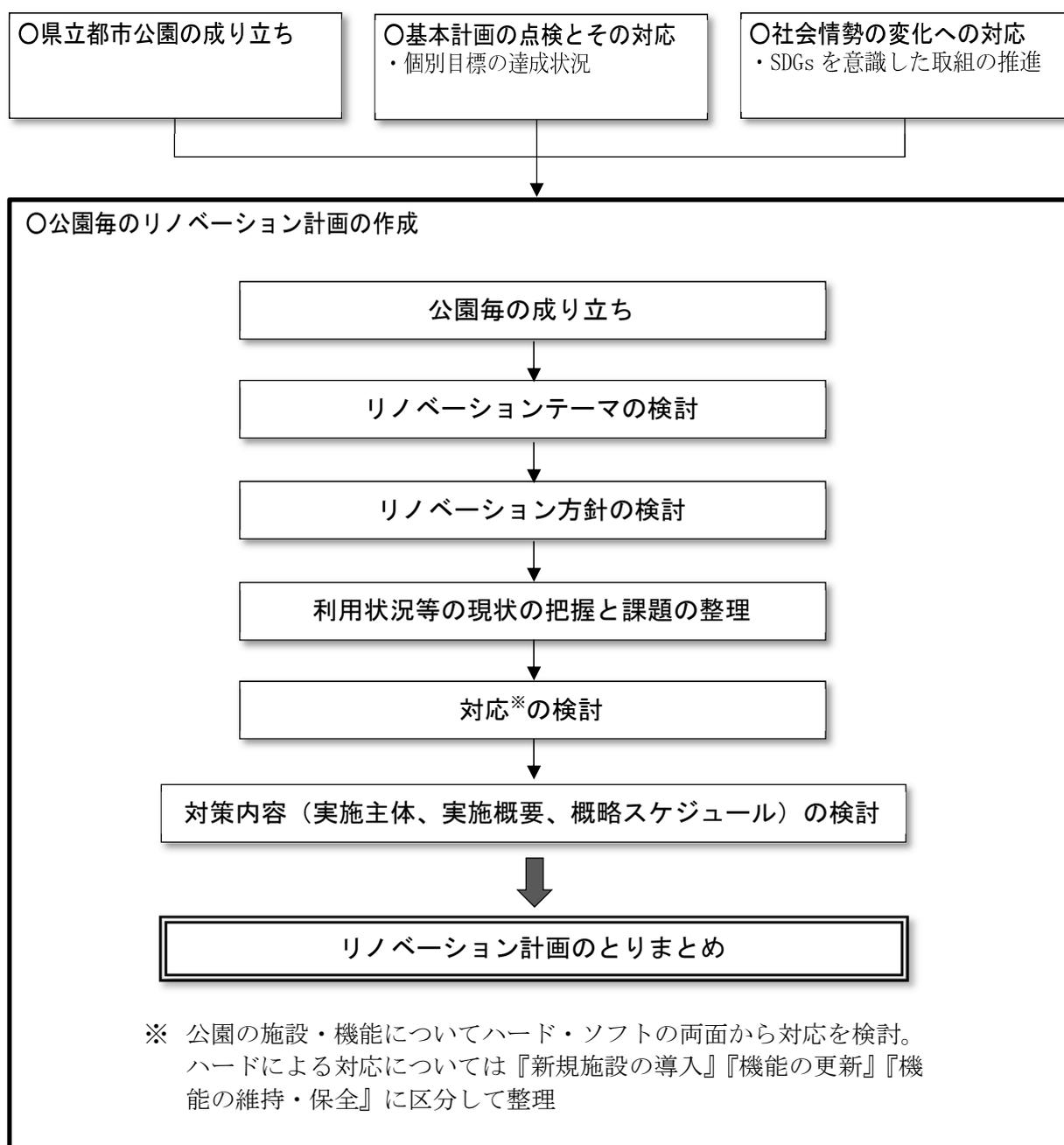
また、社会情勢等を踏まえた利用者ニーズに合わせて、必要に応じて計画の点検・見直しを行います。

2. 計画策定にあたっての基本的な考え方

2-1. リノベーション計画の作成方法

まず、県立都市公園の全体の成り立ち、基本計画の個別目標の達成状況に関わる点検結果、および基本計画策定以降の社会情勢の変化を整理します。

次に、各公園において、公園毎の成り立ちを整理するほか、リノベーションのテーマ及び方針を検討した上で、施設の利用状況等の現状の把握と課題の整理を行うとともに、主に老朽化した施設を対象としてハード・ソフトの両面から対応及び対策内容（実施主体、実施概要、概略スケジュール）を検討し、リノベーション計画を作成します。



2-2. 県立都市公園の成り立ち

兵庫県における県立都市公園の歴史は、明治33年の舞子公園の開園に始まり、戦前期においては既に民営公園として開園していた明石公園が大正17年に県立公園として開園しました。

その後、高度経済成長期のスポーツ・レクリエーション需要の拡大に対応して、昭和45年に甲山森林公園、昭和53年に播磨中央公園、昭和57年に西猪名公園が開園し、続いて昭和60年に淡路島公園、昭和62年に赤穂海浜公園が開園し、多様化するレクリエーション需要への対応が図られました。

阪神淡路大震災以降には、平成10年代に一庫公園、灘山緑地、有馬富士公園、淡路佐野運動公園、三木防災総合公園、尼崎の森中央緑地、丹波並木道中央公園、平成27年にあわじ石の寝屋緑地が開園し、阪神淡路大震災以前に多くみられた施設型の公園整備に対して、環境共生や防災等、当時の時代背景への対応と更なるレクリエーション需要の多様化に対応した公園整備を進めるとともに、参画と協働による管理運営の推進に取り組んできました。

【表 県立都市公園の成り立ち】

時期		県立都市公園の成り立ちと歴史											県等の動向	国等の動向	
		明石	甲山森林	播磨中央	淡路島	赤穂海浜	一庫	有馬富士	三木防	丹波並木道	淡路佐野	西猪名			舞子
第1期	明治から戦前・戦後	M16	<p>OM16民営公園として開園</p> <p>■T7明石公園開設■ 民営公園として開園後、御料地への編入を経て、県立公園として開園 □T13拡張(南部) □S7拡張(野球場整備等)</p> <p>■M33舞子公園開設■ 「地盤国有公園」として誕生した初の県立都市公園 松林を中心に広く一般に供された</p>											<p>◆S22 第1回国体開催(宝塚市等)</p> <p>□S41 「県勢振興計画」 ◆S42 「兵庫百年」「明治百年」記念事業</p> <p>□S47 「緑の回廊計画」</p> <p>□S50 「21世紀への生活文化社会計画」</p>	<p>OM6 太政官布達、公園制度の創設</p> <p>OT8 (旧)都市計画法の交付、公園が都市計画対象となる</p>
第2期	高度経済成長	S30	<p>□S44～各施設の順次改修、新設</p> <p>■S45甲山森林公園開園■ 甲山周辺の緑地の保全、豊かな自然の中での健康づくりをテーマとして整備 □S48整備着手:「兵庫百年」「明治百年」記念事業として整備 □S51整備着手</p> <p>■S53播磨中央公園開園■ 東播磨地域の文化・スポーツ・レクリエーションの核 「緑の回廊計画」の中核施設としての整備 OS56軟式高校野球全国大会会場としての使用開始</p> <p>OS57一庫ダムの管理開始 OS58北摂・三田ニュータウンまちづくり</p> <p>OS38灘山における土砂採取開始</p> <p>■S57西猪名公園開園■ 伊丹空港周辺の環境整備事業の一環として工場跡地(運輸省買収)を整備</p>											<p>□S60 「全県全土公園化構想」 □S61 「兵庫2001年計画」 □S61 「高速道六基幹軸」</p> <p>◆S63 ホンピア'88開催 □H1 「丹波の森構想」 □H3 「緑の総量確保推進計画」</p> <p>◆H7 阪神淡路大震災</p>	<p>OS31 都市公園法の公布 OS37 全総く地域間の均衡ある発展> OS43 都市計画法(新法)の公布 OS44 新全総く豊かな環境の創造> OS47 「都市公園等整備五箇年計画」</p> <p>OS51 「第2次都市公園等整備五箇年計画」 OS52 三全総く人間居住の総合的環境の整備> OS56 「第3次都市公園等整備五箇年計画」</p>
第3期	都市の拡大とバブル景気	S60	<p>■S60淡路島公園開園■ 淡路島内及び周辺地域のレクリエーション需要への対応 □S61拡張計画 昭和天皇在位60周年記念健康運動公園に指定 OS61レクリエーション開発構想「三田サン・クレセント構想」</p> <p>■S62赤穂海浜公園開園■ 西播磨地域の多様なスポーツ、レクリエーション需要への対応 □H1追加開園(赤穂わくわくランド) □H2基本計画策定</p> <p>□H4計画見直し 緑地保全を優先した計画に見直し</p> <p>OH6土砂採取の終了 OH6基本構想策定</p>											<p>□H8 「兵庫県グリーンフェニックス計画」 ◆H10 明石海峡大橋の開通</p> <p>□H11 「まちづくり基本計画」 ◆H12 「国際園芸・造園博「ジャパンフローラ」」</p> <p>□H13 「さわやかみどり創造プラン」 □H13 「21世紀兵庫長期ビジョン」 ◆H14 FIFAワールドカップロ韓大会 □H15 「県民の参画と協働の推進に関する条例」</p> <p>◆H18 のじぎく兵庫国体 □H18 「県立都市公園の整備・管理運営の基本方針」 □H19 「ひょうご花緑創造プラン」</p> <p>◆H22 淡路花博2010花みどりフェア</p> <p>□H23 「21世紀兵庫長期ビジョン(改定)」</p> <p>□H27 「丹波地域恐竜フィールドミュージアム構想」</p> <p>□H28 「ひょうご花緑創造プラン(改定)」 □H28 「県立都市公園の整備・管理運営基本計画」</p>	<p>OS61 「第4次都市公園等整備五箇年計画」</p> <p>OS62 四全総く多極分散型国土の構築></p> <p>OH5 「第5次都市公園等整備五箇年計画」 OH6 「都市緑地保全法」一部改正、緑の基本計画制度創設 OH6 「緑の政策大綱」</p> <p>OH10 21世紀の国土のグランドデザイン <多軸型国土構造形成の基礎づくり> OH10 「第6次都市公園等整備五箇年計画」</p> <p>OH15 地方自治法改正(指定管理者制度) OH16 都市緑地保全法、都市公園法の一部改正</p>
第4期	阪神淡路大震災以降	H8	<p>□H9追加開園(オートキャンプ場) □H10追加開園(ハイウェイオアシス等)</p> <p>■H10一庫公園開園■ 緑の保全を第一の課題とし、「自然と人の出会いの場」をメインテーマとして整備 □H11追加開園(駐車場)</p> <p>■H12灘山緑地開園■ 灘山周辺土砂採取跡地の長大な斜面地の緑の回復 □H13基本計画見直し(埋文調査) □H13移情閣が国指定文化財</p> <p>■H13有馬富士公園開園■ 阪神間北部の豊かな自然環境の保全、増大する多様なレクリエーション需要への対応 ■H15淡路佐野運動公園開園■ □OH14「尼崎21世紀の森構想」策定 全国・県大会レベルの公式大会の開催、 □OH14基本計画策定 野球王国兵庫への支援、特に少年野球の夢舞台づくり</p> <p>□H15拡張 OH16明石城跡の国史跡指定</p> <p>□H16追加開園(交流ゾーン) □H17全面開園</p> <p>■H17三木防災総合公園開園■ 県下全域を対象とする圏域防災拠点、 スポーツ・レクリエーション及び地域スポーツの振興拠点として整備 □H19追加開園(屋内テニスコート)</p> <p>■H19丹波並木道中央公園開園■ 「丹波の森構想」中核施設として整備 □H21第1期事業完成 □H21追加開園(旧木下家住宅) □H22追加開園(自然体験の森ゾーン他) □H21開伐実施</p> <p>□H23追加開園(草原と花のゾーン) □H22追加開園(旧武藤山治邸)、グランドオープン □H23追加開園(第2多目的グラウンド)</p> <p>□H26「新宮晋風のミュージアム」オープン □H26,27追加開園 □H26第2期区域の都市計画廃止 OH27「丹波地域恐竜フィールドミュージアム構想」においてコア施設として位置づけ</p> <p>OH30明石公園開園100周年 OH30ランニング施設オープン □H30リニューアル</p> <p>OH31明石城築城400周年 OR1日本遺産「『日本第一』の塩を産したまち 播州赤穂」認定</p> <p>■H18尼崎の森中央緑地開園■ 「尼崎21世紀の森構想」に基づく森づくりの リーディングプロジェクトとして整備</p> <p>■H27あわじ石の寝屋緑地開園■ 明石海峡大橋周辺地域における無秩序な開発抑制、 緑地の保全</p> <p>□H30追加開園 OR1「ラグビーワールドカップ」事前キャンプ地</p>											<p>□H8 「兵庫県グリーンフェニックス計画」 ◆H10 明石海峡大橋の開通</p> <p>□H11 「まちづくり基本計画」 ◆H12 「国際園芸・造園博「ジャパンフローラ」」</p> <p>□H13 「さわやかみどり創造プラン」 □H13 「21世紀兵庫長期ビジョン」 ◆H14 FIFAワールドカップロ韓大会 □H15 「県民の参画と協働の推進に関する条例」</p> <p>◆H18 のじぎく兵庫国体 □H18 「県立都市公園の整備・管理運営の基本方針」 □H19 「ひょうご花緑創造プラン」</p> <p>◆H22 淡路花博2010花みどりフェア</p> <p>□H23 「21世紀兵庫長期ビジョン(改定)」</p> <p>□H27 「丹波地域恐竜フィールドミュージアム構想」</p> <p>□H28 「ひょうご花緑創造プラン(改定)」 □H28 「県立都市公園の整備・管理運営基本計画」</p>	<p>OH10 21世紀の国土のグランドデザイン <多軸型国土構造形成の基礎づくり> OH10 「第6次都市公園等整備五箇年計画」</p> <p>OH15 地方自治法改正(指定管理者制度) OH16 都市緑地保全法、都市公園法の一部改正</p> <p>OH26 国土のグランドデザイン2050 <コンパクト+ネットワーク></p> <p>OH27 持続可能な開発のための2030アジェンダの採択 OH27 国土形成計画</p> <p>OH29 都市公園法改正(PaRk-PFI)</p>
第5期	これから	R3	<p>H28「県立都市公園の整備・管理運営基本計画」 ①計画期間: H28～R7(10年) 概ね5年で計画の点検 ②施策方針 時代の変化に対応したリノベーション計画の策定</p> <p>「県立都市公園の整備・管理運営基本計画」のテーマ I 活力あふれる地域づくりに資する公園 II 子育てに資する公園 III 環境との共生に資する公園 IV 安全安心な地域づくりに資する公園 V 持続可能なパークマネジメントの推進</p> <p>社会情勢の変化に対応した公園づくり ○ポストコロナ (セルフレクリエーション、リモートワーク、マイクローリズム etc) ○グリーンインフラ (レインガーデン、透水性舗装 etc)</p>												<p>OR2 ニューノーマルに対応した公園の活用</p>
		R7													

■県立都市公園としての開園、□各公園に関連する動向(計画見直し、追加整備等) ○各公園に関する出来事(イベント、周辺地域の動向)

□:関連計画等

◆:関連イベント、出来事等

2-3. 基本計画の点検とその対応

基本計画において、テーマⅠ～Ⅴの達成状況を推し測るために、テーマ毎に個別目標を設定している。

個別目標の達成状況の点検（2019年度値）の結果、以下の指標は、中間目標値（2020年度）を下回っているため、リノベーション計画に反映させることで重点的に取り組んでいきます。

【重点的に取り組む内容】

	指 標	取 組 み
テーマⅡ	【子育てに資する公園】	
	子育て支援公園における満足度	<ul style="list-style-type: none"> 管理事務所や広場、老朽遊具の改修により子育て世代の受け入れ環境の整備を行う。（西猪名公園・丹波並木道中央公園 等）
テーマⅣ	【安全安心な地域づくりに資する公園】	
	「公園の安全・安心の面」に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 市街地に位置する公園から順次、夜間照明や防犯カメラを設置する。（明石公園、西猪名公園 等）
	「遊具など施設の管理状態」に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 使用中止になっている遊具や、洋式化されていないトイレの改修を集中的に進める。（全公園）
テーマⅤ	【持続可能なパークマネジメントの推進】	
	ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画に基づく点検結果「要対策(A)」の公園施設における老朽化対策の割合	<ul style="list-style-type: none"> 予算の確保に努め、順次、対策を行う。（全公園）
	公園の情報発信の充実度	<ul style="list-style-type: none"> 公園利用者の欲しい情報等のニーズを把握し、SNSの活用など時代に合った広報の仕方や内容の工夫を行う。（全公園）

兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画における個別目標の達成状況

◎：目標達成
○：中間目標達成
△：計画策定時より上回っているものの中間目標値を下回る
×：中間目標値を大きく下回る

総合的な目標値

指標	計画策定時 実績値	目標値 (2025年度)	中間目標値 (2020年度)	実績値 (2019年度)	達成状況	評価・課題・今後の対応
県民一人当たり県立都市公園の利用回数	(2013年度) 2.0	2.2回以上/年	2.1	2.39	◎	明石城築城400周年記念事業(2019年3月23日～11月30日)により、明石公園の利用者数が前年と比べ約69万人増加した。この結果、全公園の利用者数は約1,300万人となり、目標を達成している。なお、2018年度の利用者数は約1,170万人(2.14回/人)である。

テーマⅠ 活力あふれる地域づくりに資する公園(地域の活力・賑わい・元気で健康な生活)

指標	計画策定時 実績値	目標値 (2025年度)	中間目標値 (2020年度)	実績値 (2019年度)	達成状況	評価・課題・今後の対応
赤穂海浜公園 塩の国の県外の来場者割合	(2014年度) 35%	40%	37%	37.5%	○	中間目標値を達成している。
明石公園 年間利用者数	(2012～2014年度平均) 250万人	275万人	262万人	314万人	◎	明石城築城400周年記念事業により著しく増加し、中間目標値を達成している。なお、2018年度は246万人である。
淡路佐野運動公園 年間合宿利用日数	(2014年度) 16日	20日	18日	44日	◎	高校・大学・社会人、プロ野球等、幅広く合宿利用が行われ、2025年度目標値の2倍以上の利用日数を達成している。

テーマⅡ 子育てに資する公園(子育て支援)

指標	計画策定時 実績値	目標値 (2025年度)	中間目標値 (2020年度)	実績値 (2019年度)	達成状況	評価・課題・今後の対応
子育て支援型公園における満足度	(2013年度実績) 53%	65%	59%	53%	×	授乳室等の子育てスペースの不足や遊具故障等に関する不満の意見が多い。管理事務所や広場、老朽遊具の改修により子育て世代の受け入れ環境の整備を行う。
県立公園におけるプレーパーク実施のガイドライン作成、受入体制を整備	(2015年度末) 0公園	(見直し前) 全公園 (見直し後) 4公園	(見直し前) 7公園 (見直し後) 2公園	2公園	○	明石公園、有馬富士公園で取組んでいる。甲山森林公園や赤穂森林公園において、着手済みの公園を参考にしてプレーパークの導入を着実に進めていく。

テーマⅢ 環境との共生に資する公園(環境保全・創造への対応)

指標	計画策定時 実績値	目標値 (2025年度)	中間目標値 (2020年度)	実績値 (2019年度)	達成状況	評価・課題・今後の対応
尼崎の森中央緑地 まちの緑量アップに資する植栽本数	(2005～2014年度末累計) 118種6万本	(見直し前) 300種20万本 (見直し後) 300種13万本	(見直し前) 200種13万本 (見直し後) 200種9.5万本	267種9.6万本	○	中間目標値を達成している。
尼崎の森中央緑地 環境学習プログラム参加者数	(2014～2015年度平均) 3,700人	7,400人	5,500人	6,559人	○	中間目標値を達成している。

テーマⅣ 安全安心な地域づくりに資する公園(安全・安心への対応)

指標	計画策定時 実績値	目標値 (2025年度)	中間目標値 (2020年度)	実績値 (2019年度)	達成状況	評価・課題・今後の対応
地域防災計画で位置づけのある公園施設の整備 (尼崎の森中央緑地：緊急物資受け入れ拠点 淡路佐野運動公園：救護施設)	(2015年度末) 0公園 2公園(尼崎の森中央緑地、淡路佐野運動公園) で未整備	2公園	1公園	2公園	◎	尼崎の森中央緑地、淡路佐野運動公園とも地域防災計画に位置付けられていた公園施設の整備が完了している。
「公園の安全・安心の面」に関する満足度 (「満足・やや満足」の割合)	(2013～2014年度平均) 全公園平均 81%	89%	85%	81%	×	中間目標値を下回っている。照明や防犯カメラの不足が原因である。市街地に位置する明石公園等から順次、夜間照明や防犯カメラを設置する。
「遊具など施設の管理状態」に関する満足度 (「満足・やや満足」の割合)	(2013～2014年度平均) 全公園平均 78%	85%	81%	75%	×	計画策定時よりも悪化している。使用中止になっている遊具や、洋式化されていないトイレの改修を集中的に進める。
スマートフォン等による多言語に対応した情報発信 (スマートフォンで多言語に対応した情報を入手できるシステム と情報ツールが使用できるWi-Fiスポットなどの環境を整備)	(2015年度末) 0公園	全公園	7公園	9公園	○	下記の通り対応しており、中間目標値を達成している。 多言語対応(明石公園、有馬富士公園、舞子公園) Wi-Fiスポット(明石公園、有馬富士公園、舞子公園、尼崎の森中央緑地、三木総合防災公園、赤穂海浜公園、丹波並木道中央公園、淡路島公園、淡路佐野運動公園)
「施設の使いやすさ」に関する満足度 (「満足・やや満足」の割合)	(2013～2014年度平均) 全公園平均 84%	90%	87%	85%	△	中間目標値を下回っている。施設の老朽化や陳腐化により、ユニバーサルデザイン対応ができておらず評価値が低くなっている。すべての人々が楽しく安心して利用できるよう、トイレや遊具を中心に更新を進める。

テーマⅤ 持続可能なパークマネジメントの推進(連携とマネジメントシステム等)

指標	計画策定時 実績値	目標値 (2025年度)	中間目標値 (2020年度)	実績値 (2019年度)	達成状況	評価・課題・今後の対応
ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画に基づく点検結果「要対策(A)」の公園施設における老朽化対策の割合 (要対策(A)：102施設)	—	100%	50%	40%	△	中間目標値を下回っているが、2020年度末で56%対策完了予定であり、中間目標を達成予定である。予算の確保に努め、順次、対策を行う。
公園リニューアル計画の策定	(2015年度末) 0公園	14公園	7公園	0公園	×	2020年度、全公園の計画を策定する。
公園の情報発信の充実度 (「満足・やや満足」の割合)	(2013～2014年度平均) 全公園平均 62%	68%	65%	64%	△	中間目標値を下回っている。公園利用者の欲しい情報等のニーズを把握し、SNSの活用など時代に合った広報の仕方や内容の工夫を行う。
指定管理業務の外部評価の実施公園	(2015年度末) 6公園	15公園	10公園	12公園	○	中間目標値を達成している。指定管理者を公募している公園については全て外部評価を実施している。

2-4. 県立都市公園をとりまく社会情勢等の変化への対応（SDGsを意識した取り組みの推進）

基本計画では、少子高齢化の進行や人口減少社会の本格的到来、防災や環境への意識の高まり、さらに地域創生など、県立都市公園を取り巻く社会状況が大きく変化したことを受け、県立都市公園が県民共有の資産としてより一層の効果を発現するよう、整備・管理運営を進めていく上での基本方針、推進施策を定めました。

本計画は、基本計画策定時の社会情勢に加え、平成27年（2015）の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12年（2030年）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」も考慮し策定していきます。

SDGsの実現に向けては、国だけでなく地域レベルでの参画が不可欠とされており、目標達成に向けては公民あらゆるレベル、地方自治体においての取り組みが期待されています。

国が令和2年12月に策定した「SDGsアクションプラン2021」では、「感染症対策と次なる危機への備え」「よりよい復興に向けたビジネスとイノベーションを通じた成長戦略」「SDGsを原動力とした地方創生、経済と環境の好循環の創出」「一人ひとりの可能性の発揮と絆の強化を通じた行動の加速」を重点的に取り組む項目としています。

県立都市公園は、様々な人が利用し、また多種多様な施設、環境を有することから、SDGsの目標である「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けた重要な場であり、基本計画の施策がSDGsの達成にどのように貢献するのかを示すとともに、新たに次に示すSDGsの達成を意識した取り組みを推進します。





(1) ポストコロナ社会に向けた公園からの地域展開の推進

新型コロナウイルスの拡大において、都市公園は、子どもたちの遊び場や多くの人々の健康維持のための貴重な屋外空間として機能するなど、オープンスペースとしての重要性が再認識されるとともに、テレワーカーの働く場所として利用される等、多様化する新たな利用ニーズに柔軟に対応できる場所としての可能性をうかがうことができました。一方で、外出自粛が続く中、外で運動や憩うことのできる場所を求め、多くの国民が都市公園を利用し、利用者の密集が避けられず、一部の公園施設を閉鎖せざるを得ない状況が生まれました。今後は、個人・少人数で楽しめるレクリエーションや、公園から地域への展開等、利用分散や密の回避とともに多様化する利用ニーズへの対応が求められています。

県立都市公園においては、ポストコロナ社会に向けたハード・ソフト整備の取り組みを進めます。

- ・地域の魅力を活性化させる公園内外での「マイクロツーリズム」の展開
- ・社会的距離「ソーシャルディスタンス」を保つための時間的・空間的な分散化
- ・3密を回避するための個人で楽しめる「セルフ・レクリエーション」の推進
- ・「リモートワーク」の場としての活用推進 等



リモートワークの場としての活用



バードウォッチングや個人・少人数で楽しめるイベントなど、セルフ・レクリエーションの推進



(2) グリーンインフラとしての機能強化の推進

グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能※を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。

県立都市公園においては、雨水の貯留浸透機能や景観形成機能等、グリーンインフラとしての機能をより一層強化し、防災減災や豊かな生活空間を形成します。

- ・施設改修時の屋上緑化や壁面緑化
- ・透水性舗装の整備
- ・レインガーデンの導入 等

※ 雨水の貯留・浸透等による防災・減災、生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、植物の蒸発散機能を通じた気温上昇の抑制、農作物の生産、水源かん養、水質浄化、土壌の創出・保全



透水性舗装やバイオスウェルを採用し、雨水浸透機能を確保するとともに、レインガーデンを取り入れたランドスケープデザイン(南町田グランベリーパーク、町田市)

(3) 公民連携による新たな公園の魅力創出の推進

「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」（平成28年5月）において、今後の都市公園やオープンスペースのあり方について、「1. 緑とオープンスペースによる都市のリノベーションの推進」「2. より柔軟に都市公園を使いこなすためのプランニングとマネジメントの強化」「3. 民との効果的な連携のための仕組みの充実」の



Park-PFI 制度を活用した民間事業者によるレストランの整備・管理運営（南千里公園「bird tree」、吹田市）

3つの戦略を重点的に推進すべきとされています。また、平成29年に都市公園法改正により Park-PFI が新たに設けられるなど、公民連携による都市公園の整備や管理運営を推進するための制度の拡充が図られています。

県立都市公園においては、公民連携による民間活力を活かした新たな公園の魅力創出に向けた施設整備に取り組みます。

- ・民間活力を活かしたカフェ、レストランやレクリエーション施設の整備 等



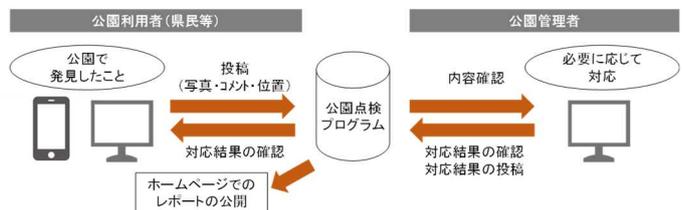
<都市公園法等の一部改正における公民連携にかかわるポイント>

- ①Park-PFI（公募設置管理制度）
民間事業者の資金を活用し、公園の再生・活性化などを推進する新たな仕組みが設けられた。
- ②占用物件の追加（保育所、その他社会福祉施設）
待機児童解消の取組強化に向けて、都市公園における保育所等の設置について、オープンスペース機能を損なわない範囲で設置可能となった。

【図 Park-PFI のイメージ（出典：国土交通省資料）】

(4) Society5.0 の取り組みの推進

情報通信技術（ICT）等が社会に浸透し、さらには未来につながる新技術として、IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）等が大きく発展し、現在も進歩を続けています。このような新技術等がもたらす未来の社会像として、超スマート社会（Society5.0）という概念が提唱されています。



公園利用者による公園不具合情報の通報システムのしくみの例

県立都市公園においては、これらの情報化の進展に対応した取り組みにより、公園利用者の利便性向上や維持管理のコスト縮減と管理水準の向上を目指します。

- ・AR 等を活用した文化財や公園施設の紹介の推進
- ・利用者による公園不具合情報の通報システム（PIP:Parks Inspection Program）の開発
- ・5G による運動施設の先進的な活用 等

(5) ユニバーサルデザインの推進

都市公園は、年齢・性別・障害の有無・文化などの違いに関わりなくすべての人々が、緑豊かで安全、快適な生活環境の中で様々な体験活動を行う場として、楽しく安心して利用できる公園づくりが必要です。

ユニバーサルデザインによる施設整備や、指定管理者による車椅子の貸し出し等のサポート、様々な人が楽しめる多様な利用・健康増進プログラムの提供等、誰も取り残さない運営を目指します。

- ・多言語による情報発信などのユニバーサル化
- ・インクルーシブ遊具の設置
- ・誰でもトイレの整備 等

(6) その他、検討・推進する取り組み

県立都市公園として以下の取り組みを推進します。

- ・県民の多様なSDGsを推進する場としての提供
- ・カーボンニュートラルを目指す取り組み
- ・キッチンカーの設置場所や移動ルートの確保
- ・多様な管理運営主体との連携



障がいの有無に関わらず、子ども達が安全に遊ぶことができる遊び場として整備された、砧公園の「みんなのひろば」(東京都公園協会)

I 目的と背景（第1章）

少子高齢化の進行や人口減少社会の本格的到来、防災や環境への意識の高まり、さらに地域創生など、県立都市公園を取り巻く社会状況が大きく変化したことを受け、県下の花と緑の取組みの方向性を示す「ひょうご花緑創造プラン」の改定に合わせ、県立都市公園が、県民共有の資産としてより一層の効果を発現するよう「兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画」を策定する。

II 現状と課題（第2章）

- ◆**現状**
- (1) 県立都市公園の整備
 - ・ 県立都市公園：15ヶ所、開園面積約1,130ha(H27.12時点)
 - ・ 一人当たり都市公園面積：12.4㎡/人(H26.3時点) → 全国平均を上回る
 - ・ 市街地の緑地面積割合：30.6%(H25.8時点) → 目標3割を達成 など
 - (2) 都市公園の運営管理
 - ・ 効果的・効率的な管理への取組：指定管理者制度を導入(H18～) → (現在)15公園全てで実施
 - ・ 県民の参画と協働の取組：管理運営協議会などを設置、各活動団体によるプログラム実施 など
 - (3) 特徴的な取組 県立淡路景観園芸学校、淡路花博及び花みどりフェアの開催 など
 - (4) 県立都市公園の整備費などの推移 平成7年以降、整備費・維持管理費とも減少傾向
- ◆**課題** 今後の都市公園における取組みに関する主な課題(5点)
- | | | | | |
|-----------------------------------|--------------------|--------------------|------------------------|--|
| 既存ストックの利活用など、時代変化を踏まえ「量」から「質」への転換 | 今後の方向性を踏まえた新たな目標設定 | 厳しい財政状況への対応(選択と集中) | これまでの整備で増大した施設の老朽化への対応 | 施設の老朽化、ストックの利活用などに対応する公園の整備・管理運営の専門人材の育成や体制の確保 |
|-----------------------------------|--------------------|--------------------|------------------------|--|

III 基本方針（第3章）

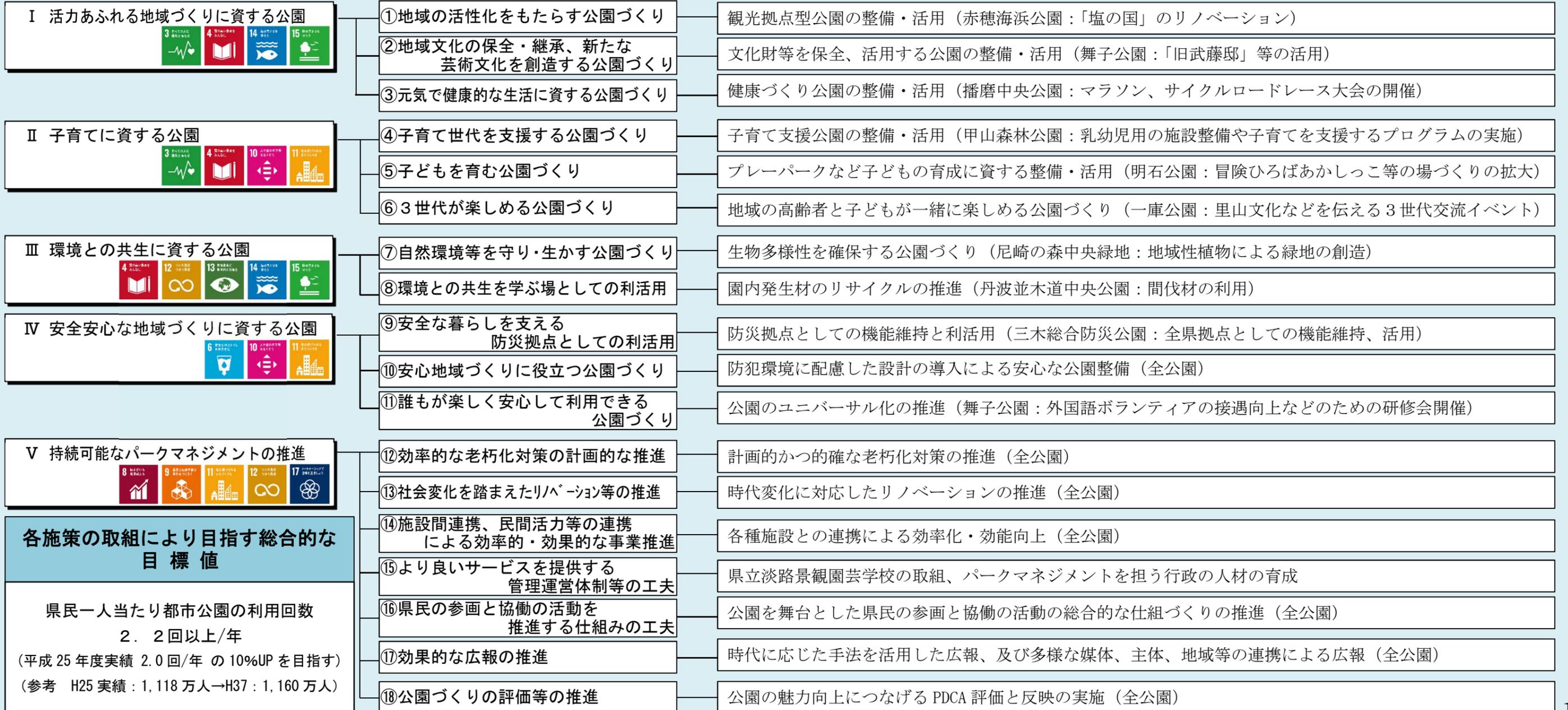
- ◆**計画期間**
- ・ 展望年次：2040年(H52)
 - ・ 計画期間：2025年(H37) 概ね5年で見直し
- ◆**基本的な取組姿勢**
- 「ふるさと兵庫」のゆたかな暮らしを支える「公園づくり」に取り組む
- ◆**取組みにおける留意点**
- ・ 社会変化を踏まえた「量」から「質」への転換の推進
 - ・ 県民の参画と協働など多様な連携の工夫、公園のもつ多様性を生かす
- ◆**テーマと施策方針**
- これからの県立都市公園で取り組む「5つのテーマと18の施策方針」

IV 推進施策（第4章）

5つのテーマ

18の施策方針

主な取組み



3. 尼崎の森中央緑地の概要

- 公園種別 都市緑地
- 計画面積 18.9ha
- 開園面積 18.9ha

(1) 概要

尼崎の森中央緑地は、森と水と人が共生する環境創造のまちづくりを目指し平成13年に策定した「尼崎21世紀の森構想」の先導中核拠点として、工場跡地に100年の森を創造するプロジェクトである。

森づくりは、生物多様性の3原則である遺伝子、種、生態の多様性をもとに、尼崎に注ぐ河川流域の種子から、参画と協働により園内で苗を育て、300種20万本を植樹する壮大な計画である。

また、公園の一面には県立都市公園で唯一のPFI事業による、水泳、スケート、フットサル等の複合運動施設である尼崎スポーツの森を開設している。

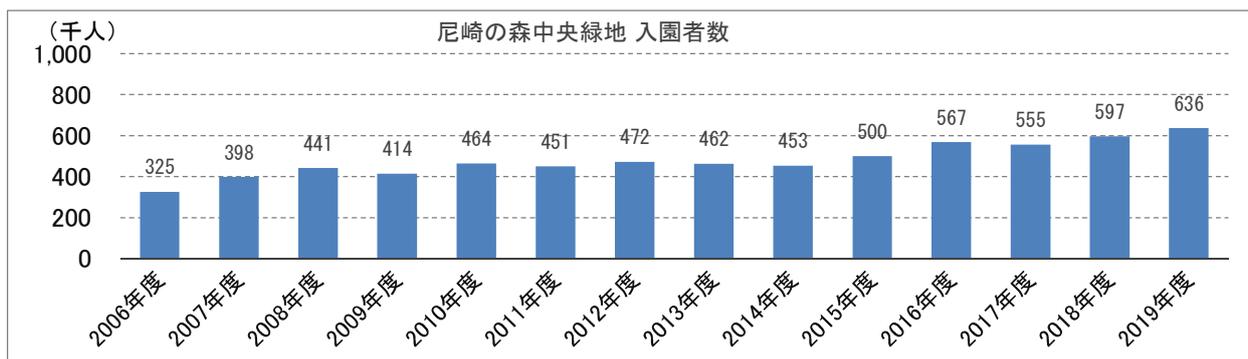
平成26年に公園の森づくりの活動拠点となるパークセンター、平成27年に県立都市公園で最大規模の大芝生広場が完成し、小学生を対象とした環境学習、企業等による植樹活動、イベント開催など多様な利用環境が整った。



公園名	尼崎の森中央緑地 (あまがさきのもりちゅうおうりよくち)
開設年月日	平成18年(2006年)5月31日
面積	計画面積: 18.9ha、開園面積: 18.9ha
種別	都市緑地
主な施設	尼崎スポーツの森(屋内・屋外プール、アイススケート(冬期)、フィットネス施設、グラウンドゴルフ、フットサル、森のこども広場(室内遊具))、芝生広場、パークセンター、育苗施設、茅葺き民家

(2) 来園者数

平成18(2006)年の開園時の入園者数は325千人であった。その後、平成25(2013)年のパークセンターの整備、平成27(2015)年の園路、中央芝生広場等の追加開園、平成30(2018)年の第2工区の全面供用開始を経て、平成31(2019)年・令和元(2019)年の入園者数は636千人と開園時の2倍に増加している。





50m プール



グラウンド・ゴルフガーデン



かやぶき民家（外観）



フットサルパーク



アマラーゴ



大芝生広場



作業棟（環境学習棟）



パークセンター

【図 施設配置図】

4. 尼崎の森中央緑地リノベーション計画

4-1 尼崎の森中央緑地の成り立ち

尼崎の森中央緑地の開園から現在に至るまでの整備および管理・運営に関わる主な出来事を整理し、これをもとにこれからの方向性を検討した。

公園名	時期											これから R3	SDGs 達成を目指した 取り組み		
	戦後復興及び高度経済成長 S20 S30 S40 S45 S50 S55					都市拡大とバブル景気 S60 H2 H7		阪神淡路大震災以降 H8 H13 H18 H23 H28						R2	
	緑の回廊計画					全県全土公園化構想		兵庫県グリーンフェニックス計画				兵庫県立都市公園の整備・管理運営の基本方針	兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画	尼崎の森中央緑地リノベーション計画	スポーツ 森づくり
尼崎の森中央緑地	取組み概要		震災の影響や産業構造の変化を踏まえた臨海地域の再生に向けた取組					民間活力の導入によるスポーツ需要への対応				民間活力の導入			
	整備		昭和末期～：工場閉鎖・転出					県民協働による、地域環境に根差した公園づくり				生物多様性			
	管理・運営		公園管理運営と森構想推進に対する参画と協働					公園管理運営と森構想推進に対する参画と協働				参画と協働			
昭和期：工場建設（鉄鋼等重工業）、阪神工業地帯の中核的存在		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H14：「尼崎 21 世紀の森構想」策定				H28：「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」改訂		○民間活力の導入による施設の改修		
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H18：のじぎく国体の開催（競泳、シンクロ）				H30：第2工区の全面供用開始		○森林の適切な管理		
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H18 開園：「尼崎 21 世紀の森構想」に基づく森づくりのリーディングプロジェクトとして整備				H25：パークセンターの整備		○長寿命化対策による老朽化施設の改修・更新を順次実施		
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H18 健康増進施設（スポーツの森）、SPC による運営開始				H27：園路、中央芝生広場等の追加開園		○社会情勢等の変化への対応 ・ポストコロナ社会に向けた公園の活用の推進 ・グリーンインフラとしての機能強化の推進 ・公民連携による新たな公園の魅力創出の推進 ・Society5.0 の取り組みの推進 ・ユニバーサルデザインの推進		
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H18 健康増進施設（スポーツの森）、SPC による運営開始				H28：遊具の供用開始		○協議会のさらなる充実（かやぶき民家や森構想エリアでの取組への展開）		
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H25：パークセンターの整備				H29：第2工区残りの園路、広場、遊具の供用開始				
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H27：園路、中央芝生広場等の追加開園				H30：かやぶき民家の復元整備				
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H28：遊具の供用開始								
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H29：第2工区残りの園路、広場、遊具の供用開始								
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H30：かやぶき民家の復元整備								
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H14：管理運営協議会開始								
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H21～：参画と協働による森づくり								
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H24：森の会議の参加をきっかけとした参画と協働による管理・運営								
昭和末期～：工場閉鎖・転出		昭和末期～：工場閉鎖・転出					H26～：尼崎市との協働による魅力アップ事業								

4-2 リノベーションテーマ

尼崎の森中央緑地のリノベーションテーマおよびキーワードを以下の通り設定する。

テーマ：森づくりによる地域環境の創出、スポーツ施設を活かした健康づくり支援

キーワード：**スポーツ** **森づくり**

4-3 リノベーション方針

公園の成り立ちや各施設の利用状況、周辺施設の状況等から総合的に判断し、「新規施設導入」、「機能の更新」、「機能の維持・保全」に分類したリノベーション方針を示す。

対応については、今後、管理運営協議会等で詳細を議論することとする。

なお、実施に当たっては、財政状況・施設の運営状況・社会情勢（ポストコロナ・SDGs等）を考慮し、県民全体のサービス向上に資するように努める。

(1) 現状と課題及び方針

■：新規施設導入 ■：機能の更新 ■：機能の維持・保全

キーワード	施設名	利用状況	課題	対応（○ハード、■ソフト）
スポーツ	屋内プール (50m、25m プール)	●利用者数:18.8万人(H29)、18.1万人(R1)	●R1年度の利用者数は、ピーク時(H29)と比較して96.3%であり、施設はよく使用されている。 ●平成15年の設置から18年が経過しており、計画的な大規模修繕等が必要である。	■機能の維持・保全 ○県を代表する水泳及びスケート施設として計画的な大規模修繕等
	フットサルパーク	●利用者数:5.6万人(H22)、3.0万人(R1)	●R1年度の利用者数は、ピーク時(H22)と比較して53.4%であり、減少している。 ●雨天時の対応が望まれる。	■機能の更新 or ■新規施設導入(民間活力導入) ○収益の向上、利用者の増加を図るため、民間活力を活かした施設改修 ・屋根付き屋内運動場の整備等 ・冬季の利用促進
	グラウンドゴルフ場	●利用者数:0.3万人(H24)、0.2万人(R1)	●R1年度の利用者数は、ピーク時(H24)と比較して66.7%であり、減少している。	
	屋外プール(アマラーゴ)	●利用者数:9.7万人(H22)、5.5万人(R1)	●R1年度の利用者数は、ピーク時(H22)と比較して56.7%であり、減少している。 ●冬季の活用方法の検討が必要である。	
森づくり	管理事務所	●環境学習やイベント等で利用。 ●毎月1回行われる森の会議で会議室を利用。	●会議室が1室しかなく、スペースが狭い。小中学生の団体利用が重なる場合も多く、環境学習用のスペース確保が必要である。	■機能の更新 ○管理事務所の増設の検討
	茅葺民家	●かやぶき民家友の会の会員や森の会議参加者により様々な企画を試行し、かやぶき民家を活用。	●文化財として維持するため、茅の葺替え等計画的な維持修繕が必要である。 ●台風等での被害軽減のため、周囲の防風林等の早期整備が必要である。	■機能の維持・保全 ○維持修繕等
	作業棟(環境学習棟)	●指定管理者およびアマフォレストの会の運営により環境学習や森づくり体験講座を実施。	●小中学生の団体利用が重なる場合も多く、環境学習用のスペースの確保が必要である。	■機能の維持・保全 ○維持修繕等
	大芝生広場	●地元住民と連携したイベントの森の文化祭の開催や森の会議で発案された企画イベントを開催及び試行を実施。	●日陰が少ない。	■機能の維持・保全 ■日陰の確保の検討(テレワークを兼ねたテントの貸し出し等)
	入り口	●管理事務所等への来園者は、阪神高速高架下の入り口からの進入が大部分。	●待機トラック等が入り口付近に駐車することもあり、入り口が分かりにくい。	■機能の更新 ○入り口サインの増設
	森づくり	●公園区域については、植樹を終了し、森育成の段階に入っている。現在、間伐等適宜実施している。	●森育成のための計画的な間伐が必要である。 ●新たな森づくりの参加者の確保が必要である。	■森づくりを計画的に進めるための間伐計画の策定
管理運営	管理運営協議会	●公園でやりたいことを実現するため、誰でも参加でき、活動出来る場。毎月開催されており、ここで発案されたイベント等実施。	●さらなる活性化のため、新規に参加したいと思えるような新たな仕掛けが必要。	■現状を踏まえた新たな仕掛け作りやさらなるステップアップのための仕組みづくりの検討 ■人と自然の博物館や淡路景観園芸学校の協力も得て、住民参画の活性化のための仕組みづくりを検討

(2) 公園をとりまく社会情勢の変化への対応

コロナ後等の社会情勢を見据え、施設の新たな活用を検討するとともに、SDGs 達成を目指した取り組みを推進する。

(ポストコロナ)

○■「3密」回避できるセルフレクリエーションの推進

・公園内生き物の観察等を支援するセルフ学習アプリの作成

○■リモートワークの推進

・芝生広場や茅葺民家等におけるリモートワークの推進

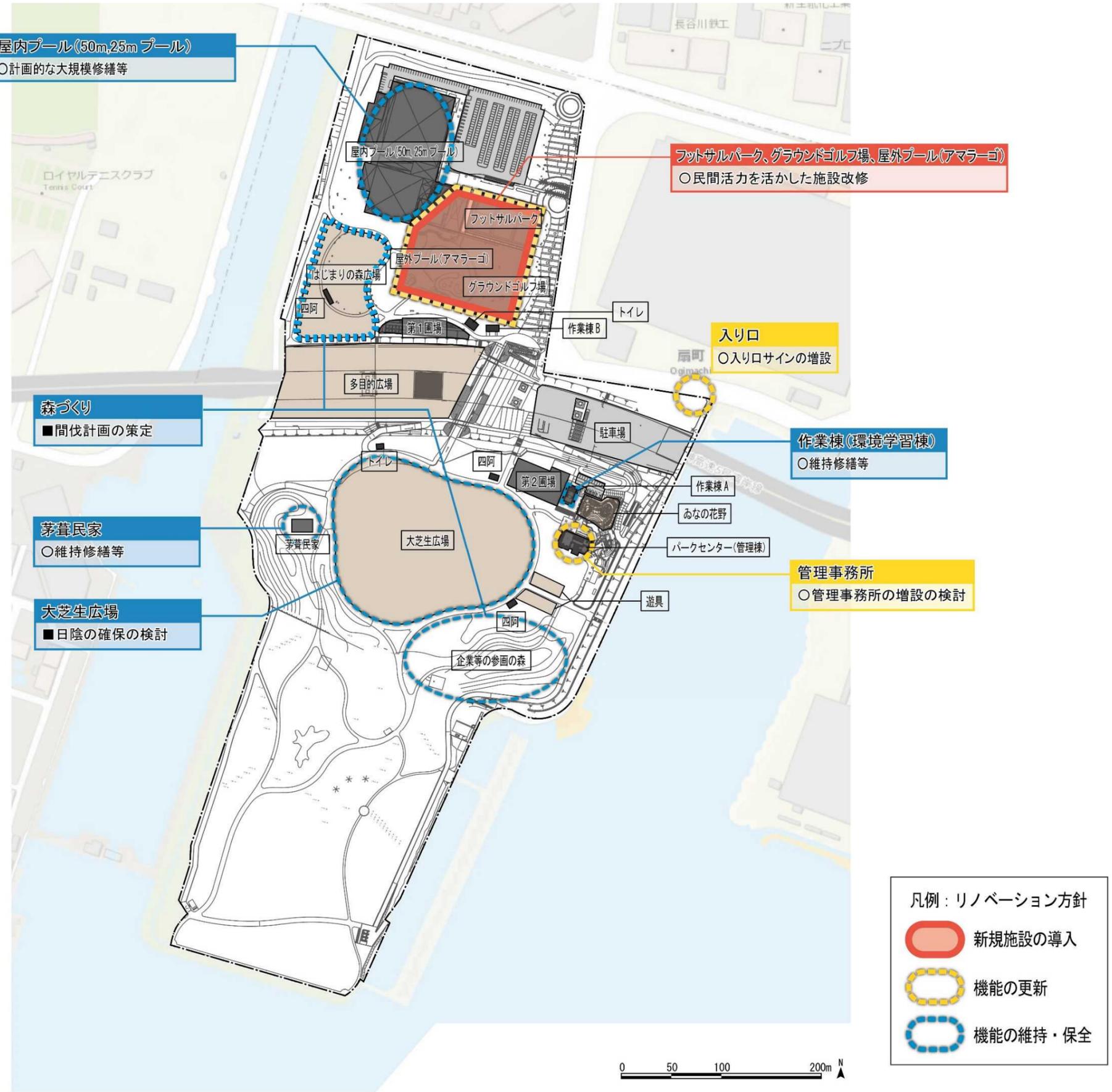
■公園内外のマイクロツーリズムの展開

・市や関係機関等との連携による、尼崎の森構想地域内各施設（運河等）と当公園をつなぐサイクリングロードや遊歩道を巡るコース等の充実

(グリーンインフラ)

○施設の修繕・新規整備の際は、透水性舗装化等の貯留・浸透機能を有効に活用

(3) リノベーション方針図 (○ハード、■ソフト)



4-4 対策内容

計画の対象ごとに、課題、実施主体、概要を示し、これに基づいてリノベーションを実施する。

①屋内プール（50m、25m プール）

<課題>

- R1 年度の利用者数は、ピーク時（H29）と比較して 96.3%であり、施設はよく使用されている。
- 平成 15 年の設置から 18 年が経過しており、計画的な大規模修繕等が必要である。

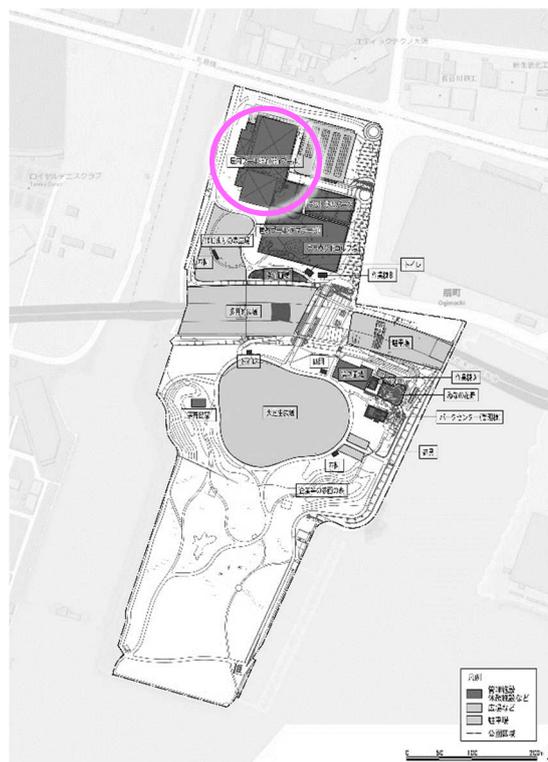
<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 計画的な大規模修繕等					
	主体となって進める機関				
	協力・連携して進める機関				

<概要>

県を代表する水泳及びスケート施設として計画的な大規模修繕等を行う。



50m プール



25m プール

②フットサルパーク

<課題>

- R1年度の利用者数は、ピーク時（H22）と比較して53.4%であり、利用者数が減少している。
- 雨天時の対応が望まれる。

<実施主体>

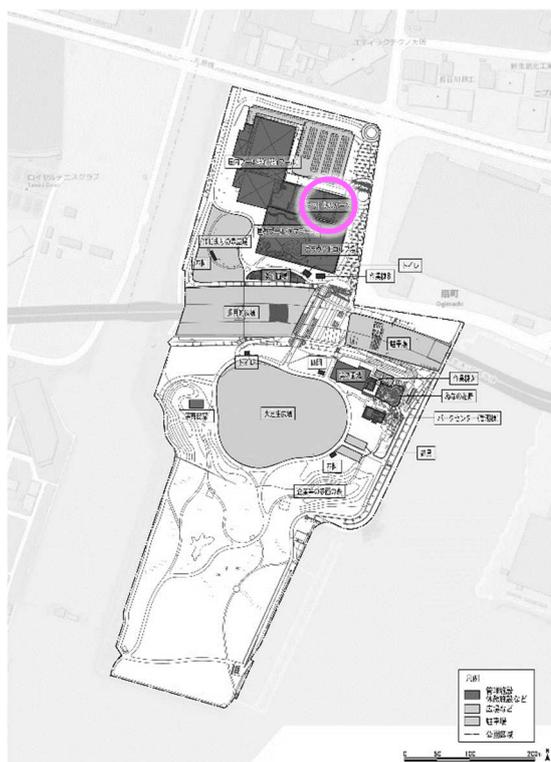
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 民間活力を活かした施設改修					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

収益の向上、利用者の増加を図るため、民間活力を活かした施設改修を行う。

- ・屋根付き屋内運動場の整備等
- ・冬期の利用促進



フットサルパーク

③グラウンドゴルフ場

<課題>

●R1 年度の利用者数は、ピーク時（H24）と比較して 66.7%であり、利用者数が減少している。

<実施主体>

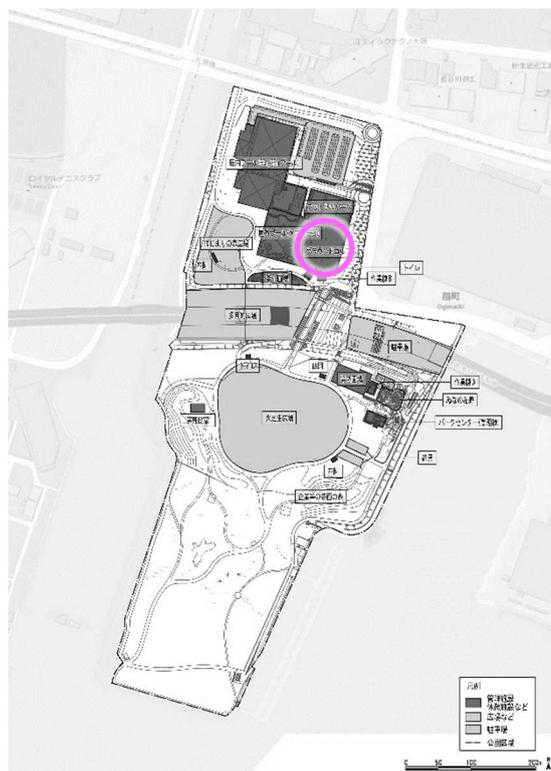
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 民間活力を活かした施設改修					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

収益の向上、利用者の増加を図るため、民間活力を活かした施設改修を行う。

- ・屋根付き屋内運動場の整備等。
- ・冬期の利用促進



グラウンド・ゴルフガーデン スタート地点



グラウンド・ゴルフガーデン 全景

④屋外プール（アマラーゴ）

<課題>

- R1 年度の利用者数は、ピーク時（H22）と比較して 56.7%であり、減少している。
- 冬季の活用方法の検討が必要である。

<実施主体>

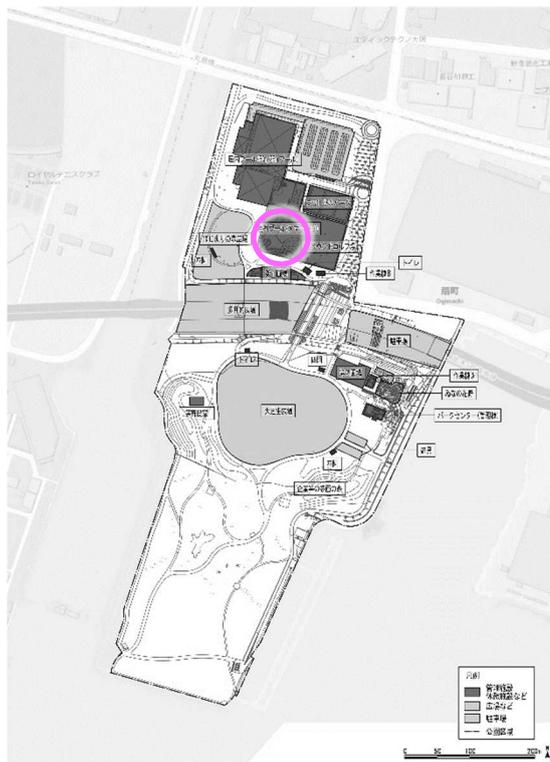
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 民間活力を活かした施設改修					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

収益の向上、利用者の増加を図るため、民間活力を活かした施設改修を行う。

- ・冬期の利用促進



リバーライド



バケツプール

⑤ 管理事務所

<課題>

- 会議室が1室しかなく、スペースが狭い。小中学生の団体利用が重なる場合も多く、環境学習用のスペースの確保が必要である。

<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

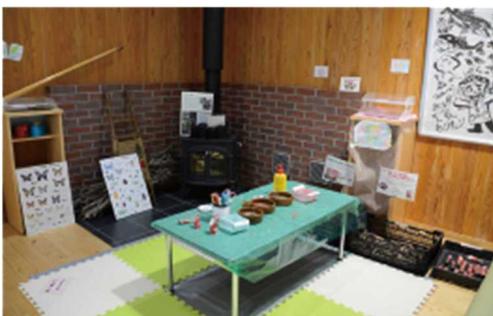
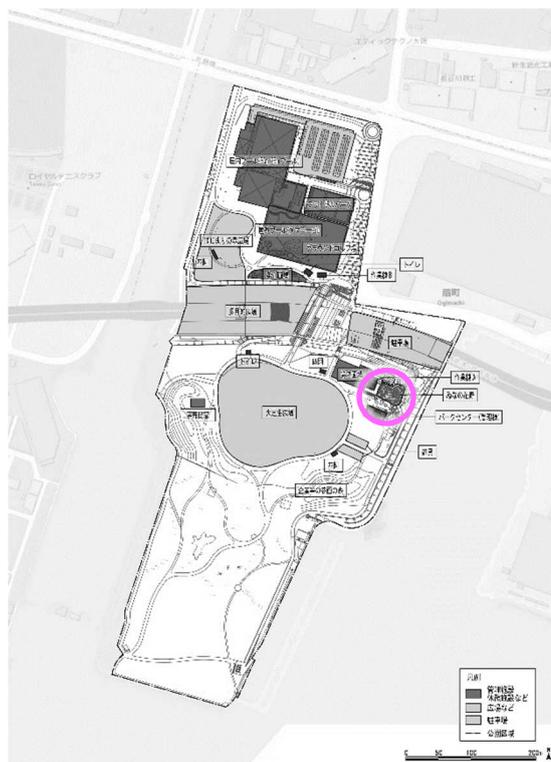
	県	指	市町	民間	住民
ハ 管理事務所の増設の検討					

<概要>

環境学習用のスペース確保に向けて管理事務所の増設の検討を行う。



パークセンター



暖炉コーナー



展示コーナー

⑥茅葺民家

<課題>

- 文化財として維持するため、茅の葺替え等計画的な維持修繕が必要である。
- 台風等での被害軽減のため、周囲の防風林等の早期整備が必要である。

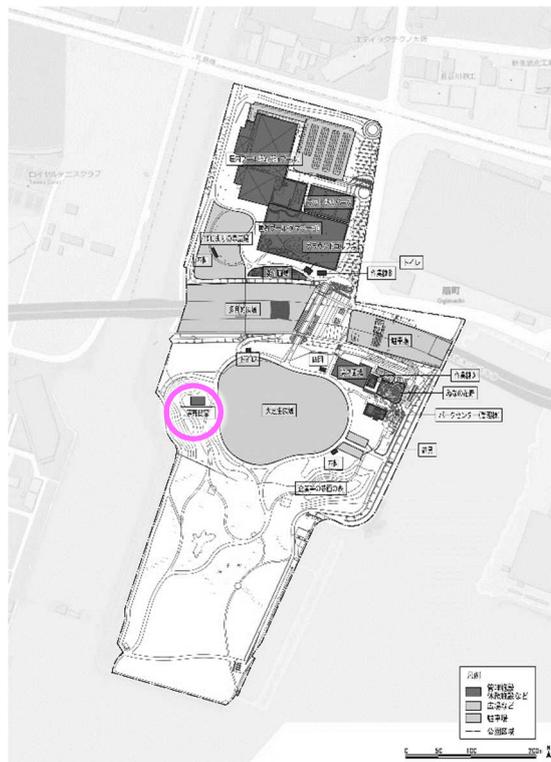
<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 維持修繕等					

<概要>

文化財として維持するため、茅の葺替え等計画的な維持修繕等を行う。



かやぶき民家（外観）



かやぶき民家（内観）

⑦作業棟（環境学習棟）

<課題>

●小中学生の団体利用が重なる場合も多く、環境学習用のスペースの確保が必要である。

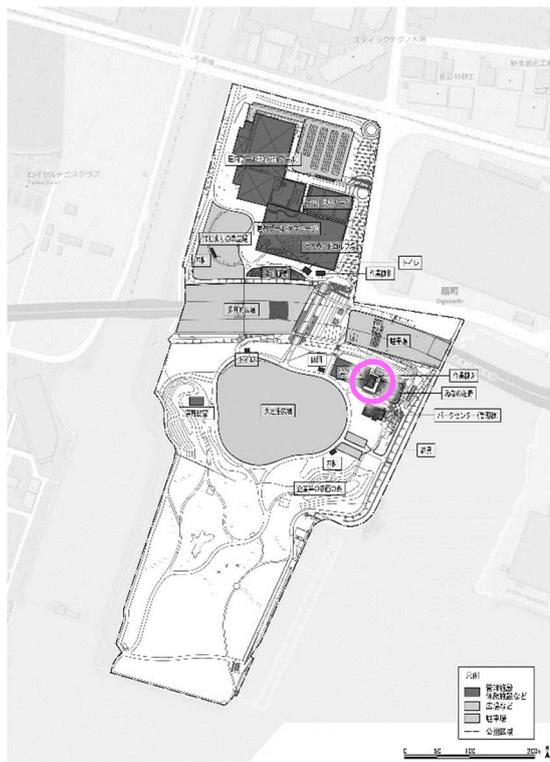
<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ハ</div> 維持修繕等					

<概要>

環境学習や森づくり体験講座などの利用促進に向けた計画的な維持修繕等を行う。



作業棟（環境学習棟）



森づくり体験講座

⑧大芝生広場

<課題>

- 日陰が少ない。

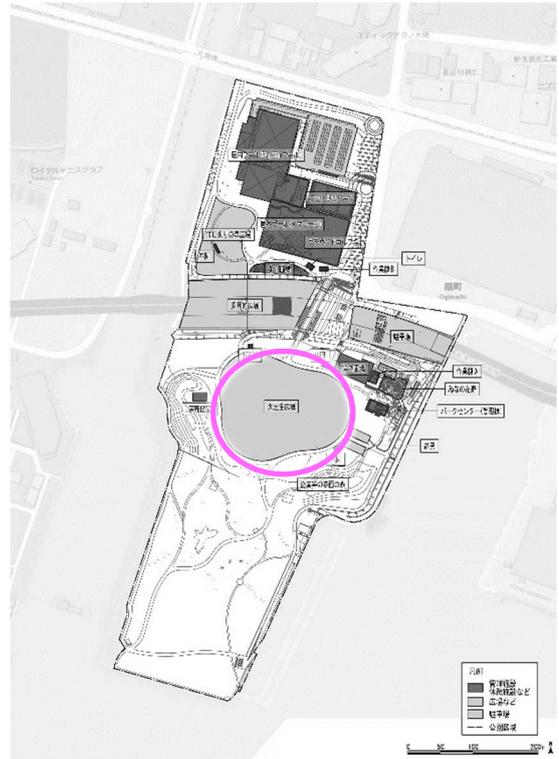
<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

ソ 日陰の確保の検討	県	指	市町	民間	住民
	主体となって進める機関				
	協力・連携して進める機関				

<概要>

テレワークを兼ねたテントの貸し出し等、日陰の確保を検討する。



大芝生広場



大芝生広場 イベント開催時

⑨入り口

<課題>

- 待機トラック等が入り口付近に駐車することもあり、入り口が分かりにくい。

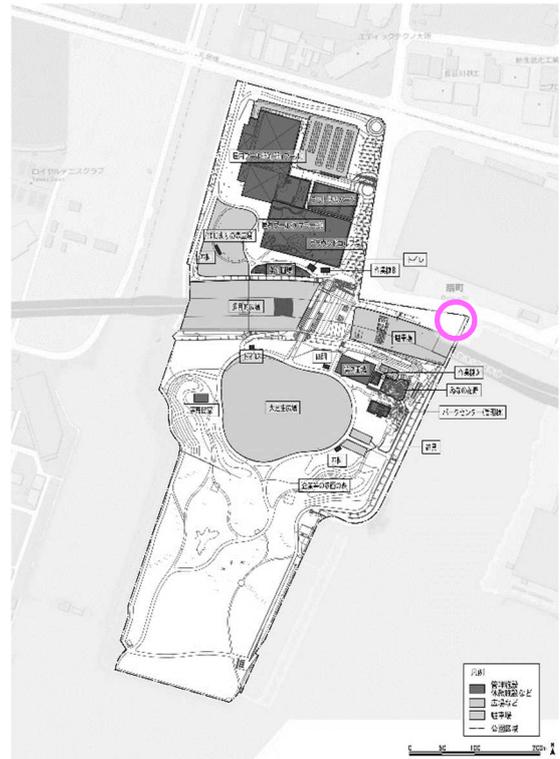
<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 入り口サインの増設					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

<概要>

阪神高速高架下の入り口にサインを増設する。



⑩ 森づくり

<課題>

- 森を育成するための計画的な間伐が必要である。
- 新たな森づくりの参加者の確保が必要である。

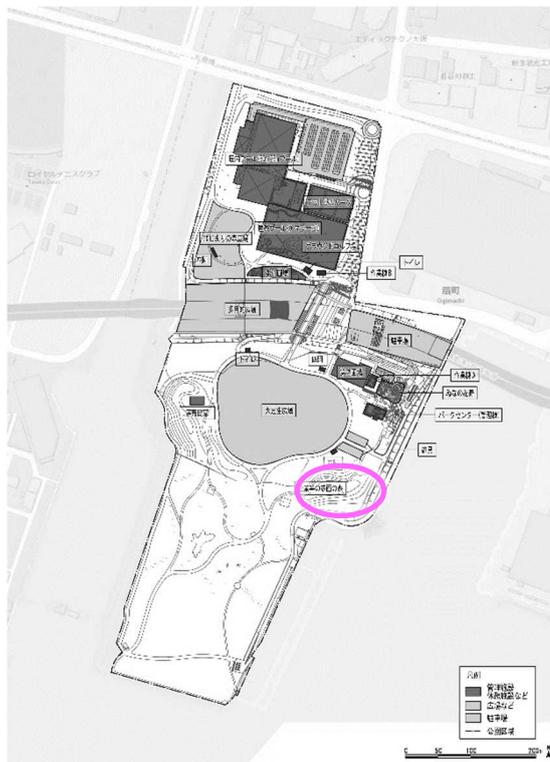
<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

ソ 間伐計画の策定	県	指	市町	民間	住民
	主体となって進める機関				
	協力・連携して進める機関				

<概要>

森づくりを計画的に進めるための間伐計画を策定する。



第2工区の森



第2工区の森

⑪管理運営協議会

<課題>

●さらなる活性化のため、新規に参加したいと思えるような新たな仕掛けが必要である。

<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	新たな仕掛け作りやさらなるステップアップのための仕組みづくりの検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
		県	指	市町	民間	住民
ソ	住民参画の活性化のための仕組みづくりの検討	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

<概要>

現状を踏まえた新たな仕掛け作りやさらなるステップアップのための仕組みづくりを検討する。

人と自然の博物館や淡路景観園芸学校の協力も得て、住民参画の活性化のための仕組みづくりを検討する。



会議の様子（パークセンター）



会議の様子（かやぶき民家）

⑫社会情勢の変化への対応（ポストコロナ時代への対応）

＜課題＞

●ポストコロナを見据え、公園の新たな活用が期待されている。

＜実施主体＞

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ハ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ソ</div> </div>	セルフ rekreiyeshiyon no suyuin					
	shuyaku to renkyou shite suyuin suru kwan					
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ハ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ソ</div> </div>	rimootowaku no suyuin					
	shuyaku to renkyou shite suyuin suru kwan					
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ハ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ソ</div> </div>	maikurotsurizumu no tenkai					
	shuyaku to renkyou shite suyuin suru kwan					

＜概要＞

公園内生き物の観察等を支援するセルフ学習アプリを作成する。
 また、芝生広場や茅葺民家等においてリモートワークを推進する。
 市や関係機関等との連携による、尼崎の森構想地域内各施設（運河等）と当公園をつなぐサイクリングロードや遊歩道を巡るコース等を充実する。

⑬社会情勢の変化への対応（グリーンインフラの推進）

＜課題＞

●近年増加している豪雨に対応するため、公園内の施設を利用したグリーンインフラの整備が必要である。

＜実施主体＞

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ハ</div> </div>	chiryu jinsookan no seibu					
	shuyaku to renkyou shite suyuin suru kwan					

＜概要＞

施設の修繕・新規整備にあわせた透水性舗装化等、貯留・浸透機能を整備する。

4-5 スケジュール

リノベーション計画の実施スケジュールを次のように定める。

なお、短期は5年以内、中期は10年以内、長期は10年超を想定している。

【表 取組内容の実現スケジュール（予定）】

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

内容	短期	中期	長期
①屋内プール（50m、25m プール）			
ハ 計画的な大規模修繕等	■		
②フットサルパーク			
ハ 民間活力を活かした施設改修	■		
③グラウンドゴルフ場			
ハ 民間活力を活かした施設改修	■		
④屋外プール（アマラーゴ）			
ハ 民間活力を活かした施設改修	■		
⑤管理事務所			
ハ 管理事務所の増設の検討	■	■	■
⑥茅葺民家			
ハ 維持修繕等	■	■	■
⑦作業棟（環境学習棟）			
ハ 維持修繕等	■	■	■
⑧大芝生広場			
ソ 日陰の確保の検討	■		
⑨入り口			
ハ 入り口サインの増設	■	■	
⑩森づくり			
ソ 間伐計画の策定	■	■	

内容	短期	中期	長期
⑪管理運営協議会			
ソ 新たな仕掛け作りやさらなるステップアップのための仕組みづくりの検討	■	■	■
ソ 住民参画の活性化のための仕組みづくりの検討	■	■	■
⑫社会情勢の変化への対応（ポストコロナ時代への対応）			
ハ ソ セルフレクリエーションの推進	■	■	■
ハ ソ リモートワークの推進	■	■	■
ハ ソ マイクロツーリズムの展開	■	■	■
⑬社会情勢の変化への対応（グリーンインフラの推進）			
ハ 貯留・浸透機能の整備	■	■	■